

①農業青年プロジェクト活動支援事業（単協） 助成実績

【25団体 908,168円】

	申請者名	共同研究活動、グループ活動の内容	活動内容の結果
1	西市青年農業者の会	芋ほり体験による食農教育	地元の中山保育園児、約10名により芋ほり体験を実施。実際に土に触れ、園児の目でさつまいもの確認・芋ほり体験をさせることができた。芋ほりだけでなく、苗を植えるところから実施できるよう検討したが、今回は実施できなかった。
2	いさはや4Hクラブ 諫早支部	販路確保に向けた取組み	農家等が農産物などを出品・販売するオンラインマルシェの「ポケットマルシェ」にて農産物の販売を行った。販売力の向上として、より多くの消費者とのマッチングを狙い、農産物セットの種類を3つに増やして出品し、SNSを通じて作業風景や農作物の栽培の様子も発信した。キャンペーン等を利用することで大きく販売数も伸びた。
3	いさはや4Hクラブ 飯盛支部	良食味品種ながさき黄金におけるトンネル栽培、 べた掛け栽培の有効性の検討	「ながさき黄金」にてトンネル栽培、べた掛け栽培の有効性を検討した。生育調査にてトンネル栽培・べた掛け栽培ともに成長促進効果が見られたが、収量調査においては、そうか病と長雨による病害でほとんどが腐敗してしまった。今後は収量増加や早期収穫の可能性について検討していきたい。
4	大村市青年農業者会	ノウフク ～目指せ！OMURAモデル～	落花生の収穫・脱英・播種作業を福祉事業所へ依頼し、農福連携の可能性を感じることができたことから、今年度は大村市の主要品目である「きゅうり・みかん・いちご」での活用方法を模索した。実際に農作業を体験してもらい、作業内容の向き不向きの意見を伺ったところ、資材の準備作業や新品のマルチ張り、苗の配布等は作業しやすいが、繊細な作業や定植作業等は難しいとの意見が出た。
5	東彼杵町 青年農業者連絡協議会	①お茶農家の新たな経営モデル ②全国青年農業者会議参加	お茶の生産量の減少およびペットボトル茶の普及により販売額が減少しているため、R2年度より茶以外の作物（ミニトマト・なす・ブロッコリー）の栽培・販売をする複合経営に取り組んだ。R3は前年度に比べ栽培技術が向上し、規模拡大により販売金額アップに繋がった。また、第60回全国青年農業者会議（リモート開催）に「地域活動部門」の九州・沖縄地区代表として参加した。
6	長崎県三会4Hクラブ	活動発信。繋がりを財産へ変換する。	共同圃場の大根収穫体験を行い、消費者との交流を図った。意見交換により、求められるのは「手に取れること」「産地や生産者がわかること」だとわかった。また「農作業の状況や技術」「農業者の日常」を若い農業者と話したいとのことであった。情報発信として、Instagramを開始した。
7	島原市安中4Hクラブ	緑肥と堆肥施用によるダイコン栽培の検討	堆肥区は岐根が若干発生した以外は病害虫被害等も見られず、生育・根重等生育も良かった。堆肥一つでも作物への影響があるため、よく発酵したものを使用する必要があるが、腐植などの土壌改良および肥料高騰の中で肥料成分も補給でき、収量の増加が見込める。また堆肥は緑肥と比べ管理作業がかからず、栽培期間も必要ないため今後利用していく。
8	有明町 青年農業者連絡協議会	露地野菜におけるドローン防除の検討	通常ドローンとホースドローンでの空中散布を比較し、作業性や省力性、コストを検証した。ホースドローンは作業性が悪く、散布時間が地上散布並みにかかり、ホースが野菜を痛める可能性が高く改良が必要。コストは、人件費や動噴使用料が上乗せとなり、通常ドローンより割高となるため、コストを下げる工夫が必要である。
9	吾妻町 青年農業者連絡協議会	ブロッコリー栽培の育苗比較	育苗場所の標高、ハウスの構造、液肥の有無等により育苗方法の違いと苗の生育を確認したが、いずれにおいても苗の葉数・葉大に大きな差はなかった。引き続き定植時の苗の状況を確認し、最も生育がよい育苗方法を整理し、今後の栽培に活かしていく。
10	千々石町農業研究会	耕作放棄地を利用した有機野菜の栽培	農薬を使わない分、通常より雑草の生長が著しく手入れが疎かになってしまった。その結果、雑草が電気柵に絡みつき効果を減衰させてしまい、イノシシの侵入を防ぐことができず、作付けしたサツマイモを全滅させてしまった。次回は反省も踏まえ、新しい技術を導入しながら再度挑戦したい。
11	小浜町農村青年振興会	秋どりブロッコリーにおける減肥栽培の検討	①当該地域慣行の施肥量 ②当該地域慣行の2割減の施肥量 ③一発肥料を用いた栽培歴の施肥基準の施肥量 ④当該地域慣行の5割減の施肥量と区割りし、試験を行った結果、すべての収穫株において異常花蕾や腐敗等がなく、秀品規格で出荷できた。地域慣行5割減の施肥量でも十分栽培可能であると考えられる。
12	愛の町農友会	続・緑肥作物を導入して収量アップ	緑肥の作付けは、セソバニアのみを夏に行った。令和4年度1月に馬鈴薯の作付けを行い、5月に大きさや味の変化を比べる予定としている。
13	国見町 青年農業者連絡協議会	ネギ残さを活用した堆肥づくり 地元の小学生との農業体験・食育活動	今回は「4：2」の堆肥を作り、前回の課題であった水分量の調整をするため、もみ殻等を使用し水分調整を行った。慣行区よりも収量は少なかったが、病気の発生等で収量が減ったりしなかったため、栽培試験としては満足できる結果となった。
14	瑞穂町 青年農業者連絡協議会	プロジェクトM 4thシーズン	学童クラブ「にじいろ」と協働し、土壌改良剤となるEM活性液を活用した堆肥づくりから、播種・除草・収穫の野菜作り（二十日大根・水菜・ブロッコリー）一連の作業を行ったところ、子どもたちが農業に関心を持ち、積極的に取り組んでくれたのでやりがいを感した。
15	南串山町4Hクラブ	「ながさき黄金」普及への道のり ～part 5～	「ながさき黄金」の秋作試験栽培を実施したが、栽培期間中の少雨により十分な成長が見られず、白絹病による病害もあり調査に必要な収量を得ることができなかった。しかし、少なからず収穫できた「ながさき黄金」を地元の飲食店で利用・調理してもらい知名度促進活動を行った。
16	深江町4Hクラブ	深江小学校と食育	深江小学校の生徒と一緒に野菜（とうもろこし・さつまいも）を作ることで、食べ物に対する関心をもつきっかけを作り、農業や地元に対する関心をもってもらおうとしたが、コロナにより定植や収穫作業と一緒に行うことができなかった。今後はコロナ禍でも食に対する関心を持てる何かを考えていきたい。
17	布津町4Hクラブ	ブロッコリーの2果どりと株間の密集栽培	限られた面積で収量を上げるため「おはよう」について株間の検討を行い、生育の差について調査したところ、密植区がやや生育が早かったが大きな差はなく、収穫開始日も変わらなかった。今後は異なる作型で再度調査を行う。

18	有家町 青年農業者連絡協議会	抑制力ポチャの栽培技術の確立 ～ブロッコリーに変わる野菜を探して～	「くり將軍」とブロッコリー栽培との比較を行ったところ、「くり將軍」は播種日が遅く、球肥大が悪かった。また高温干ばつにより、ヨトウ虫・うどんこ病の被害が大きく、発芽率も悪かった。今後の課題として、播種日を早め、吸水処理を行い、防除回数を増やすこととする。
19	北有馬・西有家農青会	かんしょプロジェクト	「青果用かんしょ」を梅雨前に植え付けし、8～9月に収穫することで高単価時期の出荷を目指した。苗の布せこみから実施したが、採苗が遅れ、植え付けが遅くなり、干ばつの影響などでいもの太り・品質が悪かった。今後の課題として、5月上旬に植え付け・9月上旬収穫で高品質・高収量を目指し、畝立て同時マルチ張り機の利用や、収穫後の貯蔵方法を考える。
20	口之津・南有馬農青会	農産物の販路拡大に向けた取組	付加価値の創出を目的とし、食品開発支援センターおよび「大地のめぐみ」「おおむら夢ファームシュシュ」の見学を行った。今後は食品開発支援センターを利用して、トマトの加工品の試作を行い、直売所を利用して試販を行う。
21	加津佐町 4Hクラブ	省力化、新しい品目で儲かる農業を！	ばれいしょにおいて、圃場準備、定植作業時間の削減に向けた省力化機械の実演を実施し効果を検証した。乗用管理機「愛さいか」歩行型半自動野菜移植機「ナウエルpyh」を活用したところ、従来の方と比べても大きな時間削減の効果はなかった。収量については、少雨高温の影響はあったものの、従来と同等程度の収量となった。
22	佐世保市青年農業者 連絡協議会	小学生に農業の大切さを伝えるプロジェクト (食育活動)	広田小学校の5年生と3品種のサツマイモ(紅あずま・安納芋・鳴門金時)を植え付け、栽培、収穫後には実食し、食の楽しさや大切さの理解に繋がった。また、小学生が自ら販売体験することで、普段手に取っている野菜がどのように流通しているかについても理解が深まったと考えられる。
23	平戸市青年農業者 連絡協議会	2021 食育プロジェクト	昨年に引き続き、生月こども園児を対象に夏野菜の定植を行い、食育活動を行った。野菜を栽培することの楽しさや達成感を伝えることができた。また、平戸高校生に対し、牛舎で講演・見学を行う事で農業の魅力を伝えることができた。
24	松浦青年農業者会	新ジャンルの果樹栽培 (レモン栽培管理) 食育活動	新たに高単価で販売できる農作物の開拓・栽培の特徴と販売方法を学ぶことを目的として、R3.3月に定植をおこなったレモンについて、適切な栽培管理を行いながら、有害鳥獣対策を行った。
25	杵岐市農協青年部	学童農園と農協青年部	青年部園にて、作物(水稲・さつまいも・野菜等)の作付から収穫まで、地域の子供達に体験してもらった。初めての農作業に戸惑いながらも一生懸命に取り組んでいた。収穫祭では教育機関および地域住民と交流を深めることができ、農業や食に対する興味・関心が高まった。

②農業青年プロジェクト活動等支援事業(専門部会) 助成実績

【14団体 888,635円】

	申請者名	共同研究活動、グループ活動の内容	活動内容の結果
1	琴海青年農業者クラブ 作業受託班	地域農業の活性化を目指し農作業サポート隊 (作業受託)波及の体制づくり	琴海地域農業維持・農業振興対策のために、ビニール張りの支援活動に取り組んだ。視察研修を予定していたが、コロナ禍により実施ができなかった。次年度は別の視察・勉強会を企画したい。
2	牛丸会	添加飼料(亜鉛製剤)活用による肥育中期以降の 食欲低下防止試験	食欲低下を起こした肥育中期の牛に添加飼料(ドンハケ岳)を50g/日・頭 給与したところ、肝臓内に蓄えられたビタミンを効果的に体内に運んでビタミン欠乏の症状を早く抑えることがわかった。ただし、ビタミンを補給するものではないため、体内のビタミンが完全になくなった場合、欠乏症が現れる恐れがあるため注意が必要と感じた。
3	県央青年ボーククラブ	飼料攪拌機の導入による哺乳期豚の混合飼料作成 作業の省力化 ほか	手作業では1回に4kgした作れなかった哺乳期用飼料を、1回20kgまで作れるようになり、機械の攪拌中に他の作業を行うことができるため、省力化および時間の有効活用につながった。
4	牛友会	生産性向上のための実証試験	暑熱期において、「レプセルSC」給与と区は無給与と区に比べ、粗飼料の摂取量が増加する傾向で、アシドーシス性の下痢も見られなかった。「レプセルRC」給与は夏季の粗飼料の食い込みが向上し、出荷時の子牛の仕上がりも良くなり販売成績にも好影響であった。
5	長崎西海地域養豚研究会	アンモニア分解剤が肥育豚の生産性に及ぼす影響	豚房清掃後にアンモニア分解剤を50倍希釈し散布した結果、離乳後事故率・出荷日齢に影響は見られなかったが、上物率が若干向上した。ただし、上物率が向上した要因として、適正な体重で出荷することを心掛けた測尺の影響が大きいと考えられるため、アンモニアキラーの散布は、肥育豚の出荷成績(事故率・出荷日齢・上物率)には影響を与えないことが示唆された。
6	長崎県茶業青年会	全国茶生産青年茶審査技術競技会の練習および 競技会出場に向けての技術向上	新型コロナウイルスの感染拡大に伴い開催が中止となったため、競技会出場に向けての練習および選手選抜に関する協議や互評会ができなかった。今後はR4年度開催される京都府での協議会へ向けて会員の技術習得によるレベルアップを図る。
7	長崎のぎ茶手揉み 振興会	全国手揉み製茶技術競技大会出場に向けての 技術向上並びに上位入賞	R3年度もコロナ禍において競技大会が中止となった。また、視察研修についてもコロナ第6波により中止を余儀なくされ、予定していた活動ができなかった。
8	ながさきグリ茶研究会	緑茶消費拡大の検討と消費者への茶PR活動	茶成分分析の結果、各成分適切な範囲で含まれており、おおむね良質であった。コロナの影響により、今年度は長崎市内での茶PRイベントが開催できず、市内でのPRも平日開催であったため、人通りが少なくお茶の売れ行きも不調であった。次年度は週末開催を検討し、県北茶の更なる認知度向上ならびに消費拡大につなげる。
9	味っ子研究会	西海みかんの将来性を見据えた担い手の資質向上	定期的な生産対策講習会の開催や、かんきつ一斉果実分析を部会より請負い、いち早く現状を早くし、栽培管理の先導的役割を担った。またカンキツの新技术や土壌分析について研修会を開催することで、産地の次世代を担う生産者として、技術や知識の向上に努めた。

10	県北和牛畜産会	生菌剤を活用した子牛の疾病対策	2～9か月齢の子牛に対して、生菌製剤（ピオスリーエース）を給与した。結果、下痢での往診が減り、子牛の疾病対策につなげることができた。診療費の低減のみならず、下痢等の発症がなかった分の子牛の発育も良好な傾向があるため、子牛販売価格の向上も期待できる。
----	---------	-----------------	--

11	ベベンこはーと	発情発見シールと繁殖管理システムの活用による繁殖成績の向上	発情発見シール「エストロテクト」繁殖管理ツール「丹波ミニマム」を活用。発情発見率90%と非常に高い結果になった。昨年から継続活用した農家では、分娩後35日からシールを貼ることにより、初回発情の発見が約10日間短縮したことを確認できた。二つを併せて活用することで、効率的に繁殖管理ができ、繁殖改善の効果があったものと考えられる。
12	IFFの会	食農教育を目的とした保育園児との農業体験交流 経営改善を目的とした個人プロジェクトの実施	保育園児に甘藷の定植・収穫作業を体験させることで、農作物の生育過程を知ってもらおうとともに、農作業の楽しさや大変さを感じてもらい農業についての理解を深めることができた。また、自ら植えた手を収穫し食する喜びを感じてもらうことで農業に対する関心を高めることができた。
13	香岐牛研究会	子牛の販売成績向上	今年度の会員による出荷子牛の平均日齢体重は、1.02kg/日（前年度比101%）だったが、香岐地域全体の平均1.06kg/日には及ばなかった。平均元売価格も香岐地区全体の平均693,048円に対して666,542円と全体平均に及ばなかった。勉強会ではセリ市結果や経営課題の検討、自給飼料作物の栄養価等について行った。
14	長崎かんきつ担い手ネットワーク	気候変動に対応する連年安定生産技術及び生産性向上技術の実証試験	機能性展着剤加用によるGA+PDJ処理の浮皮軽減効果の検証の結果、植調剤による浮皮効果は確認できたが、展着剤の有無による効果の差は判然としなかった。夏季研修会にて新品種の探索および発見事例について研修を行った結果、会員より枝変わりの報告があり、関係機関により調査を行うこととなった。

③農業青年プロジェクト活動支援事業（九州大会） 助成実績

【3団体 176,543円】

	申請者名	発表内容	発表要旨
1	（プロジェクト発表部門） 大村市青年農業者会 山口隆太郎	ノウフク ～目指せ！OMURA モデル～	H29年度より、地域振興のため落花生の栽培に取り組んでいるが、収穫後の作業に相当の労力を要することから、H30年度より労力軽減を目的とした農福連携に着目し、農作業支援者の確保やイベントによる地域振興など、地域一体となった取組を目指す。
2	（プロジェクト発表部門） 東彼杵町青年農業者連絡協議会 大場将宗 → 全国大会へ出場	レンタル青年パワー ー青年の活力で地域活性化ー	青年農業者の農閑期において、高機能脱酵素茶の原料となる青みかんの収穫や、いちごビニールハウス被覆作業への労力補完による地域貢献と農閑期の所得を確保する。
3	（意見発表部門） 大村市青年農業者会 小川未来 → 全国大会へ出場	経験を力に農業を楽しむ	大阪府から母の実家の大村市へ移住。イチジクの販売拡大に向け、各種イベントの参加やレストラン等へ出荷。女性の視点も活かし、さらに喜んでもらえる商品づくりに取り組む。 →第60回全国青年農業者会議(R4.3月開催) 意見発表において、農林水産省経営局長賞を受賞

④農業青年プロジェクト活動支援事業（地区連） 助成実績

【6団体 724,502円】

	申請者名	共同研究活動、グループ活動の内容	活動内容の結果
1	長崎地区青年農業者連絡協議会	組織維持のための会員勧誘と植物整理の知識向上	会員同士の圃場状況や栽培上のこだわりについて定期的に巡回し、見て話を聞いて勉強した。新規会員取得に向けチラシを作成、出向いて勧誘を行ったが、新たな会員獲得にはならなかった。
2	県央地区青年農業者連絡協議会	仲間づくりと地域農業への貢献、プロジェクト活動強化による資質の向上 ほか	新規就農者激励会および青年農業者発表会を実施。
3	島原半島地区青年農業者連絡協議会	プロジェクト活動や消費者交流を通じて会員一人一人の資質向上を目指す ほか	コロナの感染拡大が危惧される中、地区連活動や審査会、農業士との研修会、消費者等交流会を通して会員相互のレベルアップを図るとともに、青年農業者間の連携を深め、組織活動や地域の活性化につなげた。
5	五島地区青年農業者連絡協議会	会員相互の連携強化のための仲間づくりと消費者及び関係機関との交流を図る ほか	総会、実績発表大会を通じて、会員相互の連携強化のための仲間づくりと関係機関との交流を図った。プロジェクト活動を通して、農業経営改善・農業技術向上を目指した。
6	香岐地区青年農業者連絡協議会	エダマメの栽培体系の確立および農福連携への取り組み	クロダマル・秘伝・アカダイズ・キヨミドリ・フクユタカの4品種で栽培。今年度は病害虫防除の徹底による安定生産と、収穫・出荷調整作業を地域との福祉施設と連携することで地域貢献を目指した。出荷調整作業の人手不足は解消されたが、台風による倒伏や10月の干ばつにより収量が伸びなかった。
7	対馬地区青年農業者連絡協議会	持続可能な島の農業の検討	総会開催、ながさき農業オープンアカデミーへの参加、対馬やまねこ空港フェアでの農産物PRを行った。

⑤農業青年プロジェクト活動支援事業（県連） 助成実績

【1団体 153,000円】

	申請者名	共同研究活動、グループ活動の内容	活動内容の結果
1	長崎県青年農業者連絡協議会	クラブ員の意識向上・組織の充実、強化など	生活研究グループと連携した物販イベントへの参加、長崎県青年農業者会議、オンラインを活用した理事会の開催など

⑥青年農業者活動支援事業 助成実績
【1団体 730,000円】

	申請者名	共同研究活動、グループ活動の内容	活動内容の結果
1	長崎県青年農業者連絡協議会	九州・沖縄地区および全国青年農業者会議への参加及び運営協力	九州農政局長と語る会は現地開催となり、他県青年クラブ会員と交流することができた。各種会議・研修会等においてオンラインによる開催が増えており、移動などの時間の制約を減らすことができるため、今後はさらに県連会員が参加しやすい情報の提供や地区連と提携した取組を進める必要がある。

⑦担い手活動促進事業 助成実績
【11団体 2,018,232円】

	申請者名	事業内容	活動内容の結果
1	長崎西彼農業者連絡協議会	青年農業者や単位クラブの活動に対する助言指導および将来の担い手育成・確保など	農業女子交流会および知事や農林部幹部との意見交換会を行った。
2	県央地区農業者協議会	単位クラブの活動に対する助言指導、農大・技術習得研修生の研修受入れ ほか	女性農業者交流研修会および新規就農者との研修交流会を行った。
3	島原半島農業者会	農業後継者の育成指導、農業・農村男女共同参画を推進し、地域農業の振興発展に寄与する ほか	農業者と青年農業者等の研修・交流会および農大生の受け入れ、島原農業高校後継者激励会など。
4	県北農業者会	地域で活動する青年への支援と後継者の確保、育成 ほか	グループ員の資質の向上として役員会の開催、農業青年育成として農家等派遣研修受入れを行った。
5	五島地区農業者会	後継者の育成及び男女共同参画を推進、会員相互の連携協調、情報交換の強化 ほか	コロナの影響により、計画されてた各種事業は多くが中止となったが、他の研修会等（先進事例調査・五島地域6次産業セミナー等）への参加による研鑽に努めた。
6	杵岐農業者協議会	研修受入れ・新規参入者への助言等、将来の担い手育成を積極的に行う ほか	総会開催および活動打ち合わせなど。
7	対馬市農業者会	新しい経営、技術等の率先実行による先導的農業経営の実現と地域への波及を図る ほか	コロナの影響により、島外で開催予定であった研修会および会議が全て延期・中止となり、農業者の活動が制約された。次年度は開催方法等をよく検討し、充実した活動になるよう努める。
8	JA長崎県女性組織協議会	食・農・地域を豊かに、組織・メンバーの活性化、JA運営への参画・JAとのパートナーシップの強化	食を守る活動「母から子へ、伝えたいわが家の味、地域の味！！運動」へ県内7JAより季節にあわせたレシピを提出。次代のリーダーの育成やJAとのパートナーシップの強化を図った。
9	長崎県農協青年部協議会	次世代のリーダーの育成、青年部盟友の所得向上広報活動の強化	次世代のリーダー育成（各種研修会の開催）、青年部盟友の所得向上、および広報活動の強化、日本農業新聞・県青協Facebookに各種総会、大会等の記事を掲載し、青年部活動の周知徹底を図った。
10	長崎県農業者連絡協議会	就農希望者の円滑な就農と経営の安定、発展に向けた指導支援、技術の指導を行う ほか	知事との意見交換会（収入保険への加入の有効性・輸送コストへの支援・スマート産地化計画・老朽化したハウス等の修理、補強に対する支援など）および農業者や農林部幹部との意見交換会など。
11	長崎県農業高等学校 農業後継者育成連絡協議会	農業への興味や農業高校への進学意欲を高めるため、中学生を対象に就農意欲喚起体験入学・説明会を開催する	畜産体験ツアー、人エイクラの製造実験、介護実習体験、ドローン操縦体験など、実験実習体験や施設見学を行った。3校で416名の参加があり、アンケートでは進路決定の参考になったとの意見が多数あった。

⑧漁業士等実践活動支援事業（定額） 助成実績
【1団体 2,740,000円】

	申請者名	事業内容	活動内容の結果
1	長崎県漁業士連絡協議会	漁業士会が実施する活動等に対する支援（各地区漁業士会が行う実践活動及び視察研修、学習会等に対する支援）	他地区の漁業者及び異業種との交流、漁業技術に関する学習会の開催、魚食普及イベント等の開催及び参加、水産教室の実施（県下52回）及び視察研修を実施した。